

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート R7.3.31

学校名(伊賀白鳳高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		「力」と「志」を持った職業人を育成し、地域に貢献できる学校 ～地域の学校として、地域の子どもたちを地域で活躍できる人材に育成する学校～
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	・自ら学び、判断し、行動する生徒 ・思いやりの心と規範意識をもち社会に貢献する生徒 ・専門的な知識・技術を身につけ、未来を切り拓く生徒
	ありたい教職員の姿	・生徒の最も身近にいる大人として、大人の見本を示すことのできる教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の充実と自己実現への支援(進路・学力保障、資格取得、部活動、ICT 機器の活用) <p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長(基本的な生活習慣、学力、マナー、部活動等)と進路保障 <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識・技術、人間性を身に付けた人材育成 ・専門性を生かした地域と連携した取組 	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上 ・資格取得等の専門的な知識技術を生かした進路保障 <p>〈企業等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業人、社会人として活躍できる人材育成(基礎学力、専門知識・技術、マナー、コミュニケーション能力等) <p>〈大学・短大・専門学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学後困らない基礎学力とコミュニケーション能力の定着 <p>〈中学校・小学校・保育園等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門高校としての役割 ・系統的なキャリア教育のパートナー <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の持つ資源(専門知識、技術、人、施設等)の提供 ・地域活性化への貢献 ・防災拠点 	<p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ともに生徒を育てていくための学校教育への理解と協力 ・生徒の健康管理 <p>〈企業等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、デュアルシステム等の受け入れ ・安定した雇用の継続 <p>〈大学・短大・専門学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より高度で専門的な知識・技術等の獲得 ・進路先としての生徒の受け入れ <p>〈中学校・小学校・保育園等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・継続的な指導のための、生徒個々の情報の提供 <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育への支援

(3)前年度の学校関係者評価など		<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を活用した、魅力ある授業を目指してほしい。 ・就職選択者は貴重な人材である。仕事を辞めずに続けてもらえるとありがたい。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響でコミュニケーション能力の低下が心配である。IT化が進んでも対面でのコミュニケーションは大事である。中学生には高校を、高校生には大学や会社を見に行かせてほしい。 ・「あいさつ・おもいやり・時間厳守」を身につけられる指導を続けてほしい。 ・働きやすい職場環境づくりのために、1つの業務に対して複数人で行える体制を整えたり、役割分担はしつつも周りで協力し合って業務を行えたりすることも重要である。
(4)現状と課題	教育活動	<p>学習活動の定着のため、専門的な知識・技術の他に、基礎学力とともにコミュニケーション能力や規範意識を育む必要がある。</p> <p>生徒の自尊感情を育むために、課題克服の達成感を伴う教育活動が求められている。</p>
	学校運営等	<p>様々な課題の解決のため、関係機関との連携・協力の体制づくりを進める必要がある。</p> <p>多岐にわたる教育活動による教職員の過重労働時間の過多から、業務を複数人で行う体制づくりや、職員間の協力体制を整える必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の興味・関心や適性に合った進路を選択し、その実現に向けて、社会で求められる基礎学力、専門知識・技術とともに、社会的マナーやコミュニケーション能力を身につけた生徒を育成する。 ・検定合格や資格取得、部活動における成果等を通して、生徒の自尊感情を高め自信とやる気を引き出し、自己実現に向けて努力する生徒を育成する。 ・生徒の人権感覚を磨き、相手の立場に立って行動することができる、思いやりの心を育てる。 ・地域の教育力を活用し、生徒が主体的に活躍することで、生徒自らの自尊感情を高め、地域の活性化に貢献できる生徒を育成する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会の活性化をはかり、教員一人一人の授業力向上に取り組む。 ・生徒や保護者と積極的にコミュニケーションをとり、複数の教職員が係わりながらきめ細やかな教育相談や支援を行う ・総勤務時間の縮減や休暇の取りやすい職場など、働きやすい職場づくりをめざす。 ・風通しのよい職場づくりに取り組み、個々の教職員との対話を大切にし、学校に対する思いを共有し、全教職員の意思統一を図る。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動にまじめに取り組むことができる生徒 ・健康管理、自己管理ができ、自己表現力とコミュニケーション能力のある生徒 ・校内外における自発的な活動(スポーツ・文化活動、生徒会活動、人権活動、ボランティア活動等)に熱心に取り組む、継続して意欲的に活動できる生徒
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導	<p>()内は令和5年度の数值</p> <p>○ICTの活用した授業実践に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・生徒一人1台端末を活用した授業を実践する教員 100% (ICT 機器の活用率:75%)</p> <p>○学力の定着を図るために、グループワークや発表の機会を積極的に取り入れる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・グループワークや発表の場をすべての教員が実践する。 (実施率100%)</p> <p>【成果指標】</p> <p>・授業で主体的に考える、表現できている生徒 90% (84.7%)</p> <p>○基礎学力の向上をはかる。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・基礎力診断テストにおける国語、数学、英語のGTZが、各学年、C3以上40%以上D2以上75%以上 (1年38.9%、69.6% 2年33.3%、77.1% 3年25.6%、72.1%) (診断テストを本年度から変更する。結果を精査し次年度の成果指標を設定する予定。)</p>	<p>ICT 活用状況</p> <p>授業時間内で活用 46 授業時間外で活用 5人 活用する機会なし 4人 実践できなかった 0人 ⇒実践した教員 100%</p> <p>主体的に取り組めた85%</p> <p>事前事後指導における課題の取組状況</p> <p>1年生 事前 5.7 事後 1.1 2年生 事前 18.4 事後 18.8 (数値1人あたりの課題取組回数)</p>	
各学科における指導	<p>○各種資格・検定試験の合格率を向上させ、生徒の学習意欲や自信を育み進路実現につなげる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・各科で実施する資格・検定等の合格率を設定し、指導の充実を図る。(設定した学科100%)</p> <p>【成果指標】</p> <p>・検定や資格の合格率を70%以上(53.4%)</p> <p>○安全教育を徹底する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・実習における事故、怪我を0にする。(1件)</p> <p>○地域や関連産業との連携をすすめる。</p>	<p>検定・資格の合格率 68.8%</p> <p>2件</p> <p>・実習服に引火1件(無傷) ・実習中にやけど1件</p>	

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や関連産業との連携した取組を年間5回(5回以上) 	<p>【取組例】</p> <p>建築デザイン科(建設業協会との連携2回 インターロッキング工事出前授業、旧庁舎改修工事現場見</p> <p>生物資源科(ノハナショウブ保全活動 伊賀ジビエプロジェクト カブトムシを主軸とした産業廃棄物の資源化)</p> <p>ヒューマンサービス科(伊賀市内小学校での各教室 保育園での交流会 子育て支援センターでの世代間交流など)</p> <p>ほか各科の取組多数</p>	
生活指導	<p>○教育活動全般を通じて、授業を大切に、規範意識や挨拶、言葉遣いの指導を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員から積極的な挨拶を行う。 ・チャイムにより授業を開始する。100%(100%) ・教室では、防寒着を着ないように指導する。100%(85%) ・学校遅刻、授業途中入退室を減らす。(1クラス月平均)(学校遅刻 10.1人【前年比0.1人減】)(授業途中入退室5.8人【前年比1.4人増】) 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 実践した ・チャイムによる授業開始 85% ・防寒着指導79.5% ・学校遅刻 9.0人【前年比1.1人減】 ・授業途中入退室 7.1人【前年比1.3人増】 	
進路指導	<p>○生徒が進路を切り拓く力を、各科、各分掌で意識して系統的な取組を実践する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科と連携した進路相談、面接指導の充実を図る。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「就職・進学について自己実現ができた」3年次生徒100%。(97.1%) ・進路相談シートを活用する生徒 100%(100%) ・学校斡旋を希望する就職希望者の内定率 100%(100%) ・進学希望者の希望実現 100%(100%) <p>○学校行事においてキャリア形成を意識させる教育活動を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年別進路ガイダンスの実施 ・2年次のインターンシップの実施 ・全学年でのキャリアパスポートの活用 	<p>自己実現できた94%</p> <p>進路相談シートの活用 100%</p> <p>就職希望者内定率内定率 100%</p> <p>進学希望者の希望実現 100%</p> <p>左記、活動指標のほか、3月に2年生希望者対象、企業見学会(3日間)も実施。</p>	

人権教育	<p>○人を傷つけない行動をするための生徒の主体的な取組を支援する。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の大切さと共に他の人の大切さを認める力が高まった。」と感じている生徒 80%以上 (95.1%) ・生徒が主体的に取組む学習活動 年3回以上 ・人権面談 年1回 	<p>人権意識の向上 94%</p> <p>実施済 実施済</p>	
部活動	○部活動を通して競技力の向上を図るとともに、人間力の向上を目指す。		
改善課題			
<p>・一人一台端末の活用に向け研究、研修の継続が必要であるとともに、授業時間中に端末を職員室に借りにくる生徒が増加していることから、生徒にも日常的に使用するものであるという意識づけを行わなければならない。</p> <p>・多様な生徒の入学が増加しているため、より一層、基礎学力の向上を図る必要がある。</p> <p>・実習中の事故防止に向け、引き続き緊張感を持って取り組まなければならない。</p>			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教員の指導力向上	<p>○常に授業改善を実践する。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学の実施 80%以上(66.7%) <p>○高いコンプライアンス意識を持つ。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修 年間3回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の学校満足度90%以上(88.8%) 	<p>授業見学 53/67(人) 80.6%</p> <p>コンプライアンス研修 3回実施</p> <p>保護者の満足度 90%</p>	
広報活動	<p>○小学生、中学生、地域等への情報発信を積極的に行う。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP、インスタグラムの更新を年間80件以上、フォロワー1000人以上。広報紙年間10回 (70件、970人 10回) ・ケーブルテレビ等での放送回数:50回 (40回) ・中学生の本校への進学希望者数を定員の1.03倍 (1.03倍) 	<p>インスタグラム更新64回 フォロワー1202人 HP更新18回 広報紙10回 CTV等51回</p> <p>・本校への進学希望 後期選抜志願倍率0.89倍</p>	

<p>防災・ 危機管理</p>	<p>○危機管理意識を高める。 【活動指標】 ・防災訓練・避難訓練年間2回(2回) ・防災講話年間1回(1回)</p>	<p>実施済 実施済 そのほか救急救命講習(教職員対象)を7月19日に実施</p>	
<p>教育相談 特別支援 人権</p>	<p>○教育相談、人権、特別支援の各担当を軸に、各分掌が連携を密にし、適切な対応、指導を行い、学校生活を充実させる。 ○多くの教職員がいることを強みとして、生徒との関わりを深める。 【活動指標】 ・定期的な情報交換を年間12回開催。(16回) ・人権面談、進路面談を実施する。 【成果指標】 ・相談できる人がいる割合80%以上 (本校職員:52% 本校生徒:76.9% 本校以外:79.1%)</p>	<p>・定期的な情報交換会8回 ・面談 実施済 相談できる人 (本校職員48% 本校生徒77% 本校以外77%)</p>	
<p>働きやすい 職場環境</p>	<p>○チーム「白鳳」として、業務を複数人で行うなど、チームワークを大切にしたい体制を構築する。 【活動指標】 ・事前の情報共有、資料の事前配布により、会議の回数や会議の時間を減じる。 ・定時退校日に退校できた教職員の割合 80%以上(71.2% 12月) ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100%(99.7% 12月) ・放課後に開催された職員会議、企画委員会を60分以内に終了する会議の割合 80%(46.6% 12月) 【成果指標】 ・1人当たりの月平均時間外労働時間30時間以下(16.9 1月) ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人(79人 1月) ・年360時間を超える時間外労働者の人数 0人(12人 1月) ・一人当たりの年間休暇取得日数 平均17日以上(17.4日 1月)</p>	<p>・定時退校 81.0% 12月 ・休養日の設定 100% ・60分以内に終了した会議 63% ・1人当たり月平均時間外労働 20.6時間 1月現在 ・月45時間超え労働者数 145人 1月現在 ・年360時間超え労働者数 29人 ・平均休暇取得 18.6日(1月)</p>	
改善課題			
<p>・コンプライアンス意識の維持、向上に向け、本校にとってふさわしい研修を継続する必要がある。 ・令和7年度前期入学者選抜において電子機械科が定員割れ、後期選抜(くくり募集)においても定員割れが生じた。 ・年度途中で休職、退職する教職員が複数名あり、他教員が業務を代行する等のサポート体制をとったが、サポートにまわる教職員が業務過多により疲弊した。</p>			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・伊賀白鳳高校は就職希望生徒も多いことから、進路指導経験の長い教員が進路指導を担当するのがよいのではないかと。・先生方には授業に関する研修を受け、時代にあった授業をしていただきたい。・校外での実習は生徒に成長を促し、自身を与える機会となっているので、数多くの機会を設けてほしい。・資格取得は将来にわたり自分の力を証明するものであるため、今以上に積極的にチャレンジするよう指導してほしい。・伊賀白鳳高生に限らず、若い人たちは弱いところを隠さなくなっているが、様々なことに対応できる力をつけてほしい。
---------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・令和6年度より確認テストを実施している。基礎学力の向上につながるよう、結果を精査、対策を検討する必要がある。・令和6年度の進路希望100%実現を達成したが、3年次半ばに進路希望そのものが家庭の事情により二転三転する生徒がいた。進路希望の実現には、生徒に対してだけでなく保護者への進路指導を充実させなければならない。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・令和7年度入学者選抜において、定員割れが生じた。魅力を伝える活動の継続とともに、地域等に強く支持される学校となるよう教職員への研修と生徒への生活指導を一層充実させる必要がある。・教職員の時間外労働時間は増加傾向にある。また、休暇取得日数は増えているものの、競技団体用務や感染症り患による影響とも考えられる。心身の調整のため、「純粋な休暇取得の奨励」が必要がある。